

未婚ミドルの過去・現在・将来

— 40代・50代未婚者の生活と意識に関するアンケート調査結果 —

公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団(理事長 富澤龍一)は2016年1月、全国の40代と50代の未婚者(未婚ミドル)を主な対象としたアンケート調査を実施しました。

過去の恋愛経験や結婚観、就労状況、現在の生活状況や親との関係、生活満足度、さらに老後に向けた準備や将来の不安などについて幅広く調査することにより、未婚ミドルの素顔が明らかになるとともに、少子化問題や今後ますます増加する単身高齢者の生活問題を考える上で参考となるデータを得ることもできました。

調査結果の一部をご紹介します。

< 主な内容 >

【過去】

掲載ページ

1. 未婚ミドル男性の3割、女性の2割が、これまでに異性との交際経験なし…………… 3
2. 40代を迎えて結婚を前向きに考えるようになった人も…………… 4
3. 未婚ミドル女性は2人に1人が、30歳当時も現在も、結婚相手の「経済力」を重視… 5
4. 30歳当時子どもを持つことに前向きだった未婚ミドルの多くは、現在も結婚に前向き… 6
5. 未婚ミドルの若い頃の正規就労率は、既婚者を大きく下回る — 未婚化との関係を示唆… 7

【現在】

6. 総合生活満足度を高めるカギは経済と健康、ネックになるのは自分の時間と人間関係… 8
7. 未婚ミドルが感じる独身の最大のデメリットは「病気になったときが不安」…………… 9
8. 未婚ミドル男性の半数強、女性の2/3近くが「現在の税金や社会保障制度は未婚者に不利」 10
9. 親と同居中の未婚ミドルは、男性の5割、女性の7割近くが、親を日常から経済面で頼りに… 11
10. 介護が必要な親がいる未婚ミドル男性の4割強、女性の6割近くが、介護の主役は「自分」… 12

【将来】

11. 未婚ミドル男性の3割、女性の4割が、自身の寝たきりや認知症を心配…………… 13
12. 未婚ミドルは男女とも3割が、老後資金の不足額が1千万円超と予測…………… 14
13. 未婚ミドルの5割前後が、老後に介護が必要になっても、自宅暮らしを想定…………… 15

<p>ご照会先</p>	<p>公益財団法人 ダイヤ高齢社会研究財団 (略称:ダイヤ財団) 〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-34-5 VERDE VISTA 新宿御苑 3階 企画調査部 森 義博 [電話] 03-5919-3143 [メール] mori@dia.or.jp 事務局 南部光男 [電話] 03-5919-3176 [メール] nambu@dia.or.jp [FAX] 03-5919-1641 (共通)</p>
-------------	---

＜ 調査の概要 ＞

1. 調査対象

全国の40歳以上59歳以下の男女

* 主対象は未婚者。一部の質問における比較のため、既婚者も対象に設定。

2. 調査方法

インターネット調査(株式会社クロス・マーケティングの登録モニター対象)

3. 調査時期

2016年1月22日～24日

4. 標本数

年齢	未婚者			既婚者(離別・死別を含む)		
	男性	女性	計	男性	女性	計
40～44歳	703 (23.4%)	423 (14.1%)	1,126 (37.5%)	113 (11.3%)	129 (12.9%)	242 (24.2%)
45～49歳	507 (16.9%)	283 (9.4%)	790 (26.3%)	112 (11.2%)	126 (12.6%)	238 (23.8%)
50～54歳	381 (12.7%)	188 (6.3%)	569 (19.0%)	113 (11.3%)	127 (12.7%)	240 (24.0%)
55～59歳	354 (11.8%)	161 (5.4%)	515 (17.2%)	132 (13.2%)	148 (14.8%)	280 (28.0%)
計	1,945 (64.8%)	1,055 (35.2%)	3,000 (100.0%)	470 (47.0%)	530 (53.0%)	1,000 (100.0%)

* 未婚者(3,000名)・既婚者(1,000名)それぞれの内訳となる男女別・5歳階級別の標本数は、2010年の国勢調査結果の比率に基づいて設定。

* ()内は、未婚者・既婚者それぞれの合計標本数を100とした占率。

5. 主な調査項目

本アンケートにおける主な調査項目は以下のとおり。なお、下線は既婚者も対象とした項目。

過去	<ul style="list-style-type: none"> ・同居者 ・年収 ・結婚意向 	<ul style="list-style-type: none"> ・親の存否 ・交際経験 ・結婚相手の条件 	<ul style="list-style-type: none"> ・職業 ・交際未経験の理由 ・子どもを持つ意向 	<ul style="list-style-type: none"> ・就労実態 ・出会いのきっかけ
現在	<ul style="list-style-type: none"> ・同居者 ・職業 ・結婚相手の条件 ・友人・兄弟姉妹との交流 ・社会保障制度等に対する考え 	<ul style="list-style-type: none"> ・住まい ・働く理由 ・性格・タイプ ・相談相手 	<ul style="list-style-type: none"> ・親の介護 ・年収・金融資産 ・生活満足度 ・独身のメリット・デメリット 	<ul style="list-style-type: none"> ・親との金銭援助関係 ・結婚意向 ・日常の楽しみ
将来	<ul style="list-style-type: none"> ・引退予定年齢 ・老後世話になる人 ・親の介護 	<ul style="list-style-type: none"> ・働く理由・引退する理由 ・老後準備(金銭面/金銭面以外) ・自分の介護 	<ul style="list-style-type: none"> ・引退後の住まい ・老後の不安 	

1. 未婚ミドルの交際経験

- ◎ 未婚ミドル男性の3割、女性の2割が、これまでに異性との交際経験なし
- ◎ 交際未経験の理由は、男性の4人に1人、女性の3人に1人が「面倒」だから

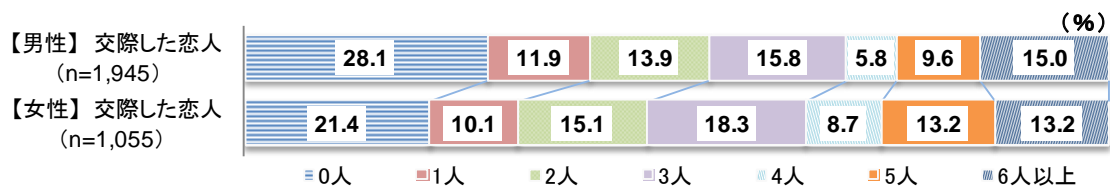
◆ 未婚ミドル男性の3割、女性の2割が、これまでに異性との交際経験なし

未婚ミドルに、これまでに交際した恋人の人数を訊いたところ、「0人」という回答が、男性の3割(28.1%)、女性の2割(21.4%)を占めました。

なお、交際人数の平均は、男性が2.9人、女性は3.1人で、男性は既婚者(3.5人)を下回ったものの、女性は既婚者(3.1人)と変わりませんでした(図表は割愛)(注)。

(注) 既婚者には、配偶者を含む結婚までの人数を質問。なお、平均人数の算出にあたっては、「10人以上」は「10人」として計算。

図表 1-1 交際した恋人の数

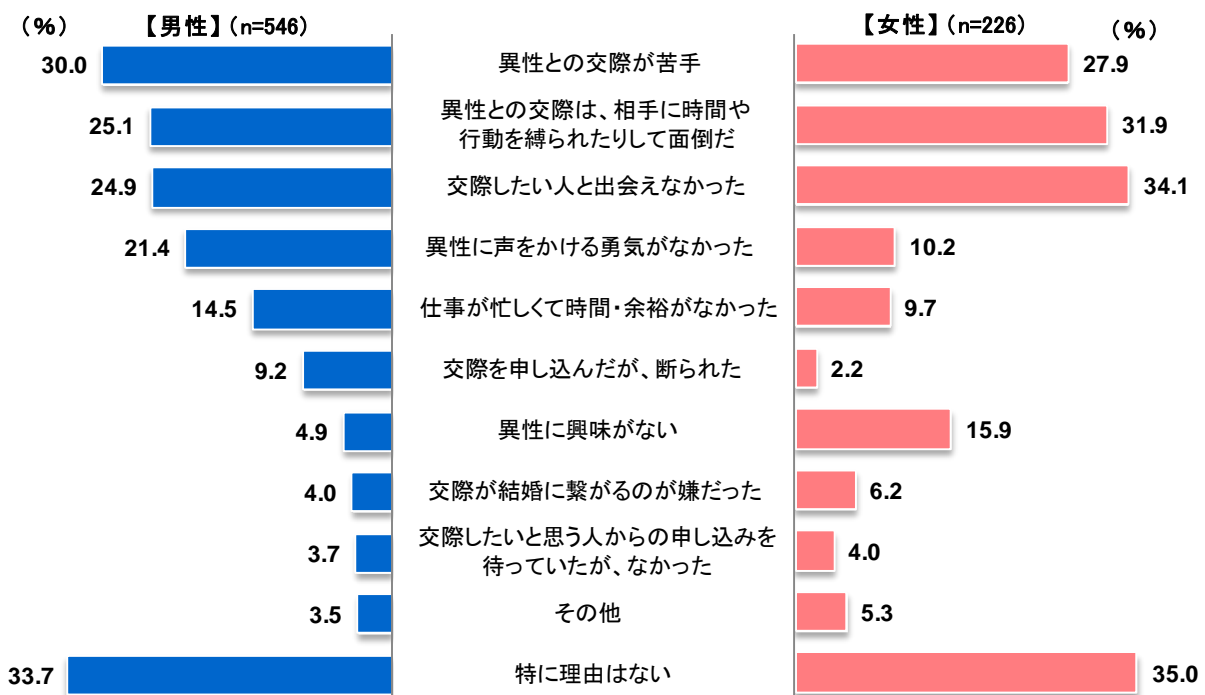


◆ 交際未経験の理由は、男性の4人に1人、女性の3人に1人が「面倒」だから

異性との交際経験のない未婚ミドルにその理由を尋ねたところ、「特に理由はない」が男女とも最多でした(男性 33.7%、女性 35.0%)。次いで男性は「異性との交際が苦手」(30.0%)、女性は「交際したい人と出会えなかった」(34.1%)でした。「交際したい人と出会えなかった」は男性も4人に1人(24.9%)が挙げており、出会いの機会の不足、理想と現実のギャップなどが窺える結果となりました。

さらに着目したいのは、男女とも3位に入った「異性との交際は面倒」(男性 25.1%、女性 31.9%)です。内閣府の「平成26年度 結婚・家族形成に関する調査」でも、20代・30代の交際相手のいない未婚者に、恋人を欲しいと思わない理由を訊いており、「恋愛が面倒」は男女とも5割弱が挙げてトップでした。今回の調査で、若者だけではなく、ミドル層においてもこうした理由が上位にくることが分かりました。

図表 1-2 交際未経験の理由(交際した恋人が「0人」と回答した人。複数回答)



2. 未婚ミドルの結婚に対する気持ち

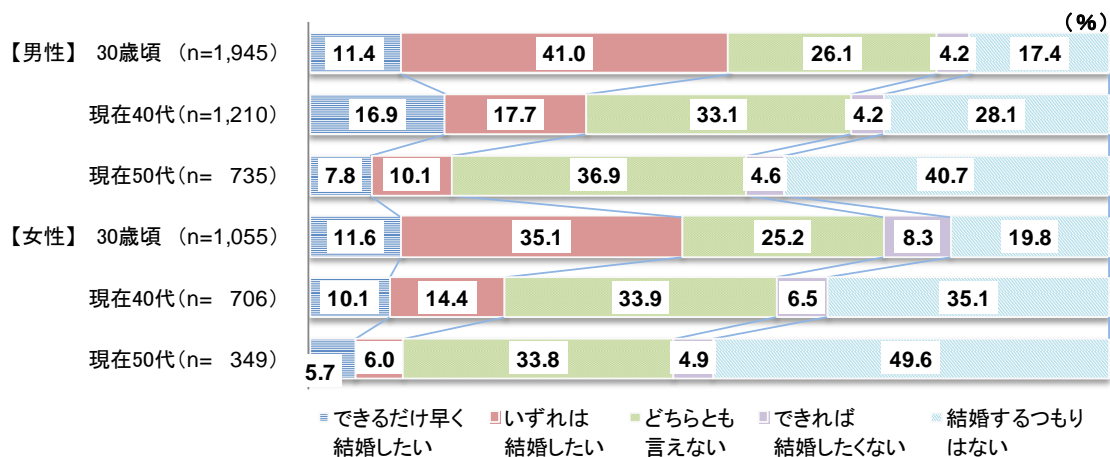
- ◎ 未婚ミドルの男女とも2割近くが、30歳当時「結婚するつもりはない」と考えていた
- ◎ 40代を迎えて結婚を前向きに考えるようになった人も

◆ 未婚ミドルの男女とも2割近くが、30歳当時「結婚するつもりはない」と考えていた

未婚ミドルに結婚に対する今の気持ちと、平均初婚年齢に近い30歳の頃にはどう思っていたかを尋ねました。

男女とも2割近く(男性17.4%、女性19.8%)が、30歳の頃に「結婚するつもりはない」と考えていました。年齢が高まるにつれて“結婚に前向き”な人(「できるだけ早く結婚したい」と「いずれは結婚したい’)は減っていきませんが、40代の男性に着目すると、「できるだけ早く結婚したい」と思っている割合が、30歳の頃(11.4%)よりも現在(16.9%)のほうがむしろ高くなっています。

図表 2-1 未婚ミドルの結婚に対する気持ち — 30歳頃と現在(40代・50代)



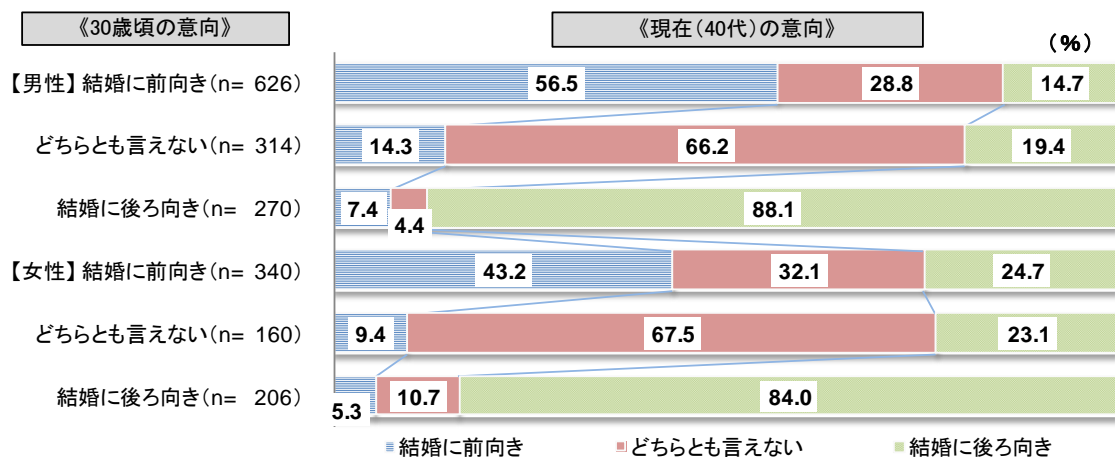
◆ 40代を迎えて結婚を前向きに考えるようになった人も

そこで、現在40代の未婚ミドルについて、30歳頃と現在で結婚意向がどう変化したかを確認しました。

30歳頃は「どちらとも言えない」と考えていた人のうち、男性の14.3%、女性の9.4%が、40代になった現在は“結婚に前向き”な気持ちを持っています。さらに、30歳の頃は“結婚に後ろ向き”だった人でも、男性の7.4%、女性の5.3%が、現在は前向きな気持ちに変わっています。

結婚したいと思っている時期に安心して結婚できるような社会環境づくりが、まずは大切だと言えます。さらに、ミドルになって結婚を前向きに考えだした人の婚活をサポートすることも、必要ではないでしょうか。

図表 2-2 40代未婚者の結婚に対する気持ちの変化 — 30歳頃と現在(40代)



3. 未婚ミドルの結婚相手の条件

◎ 未婚ミドル女性は2人に1人が、30歳当時も現在も、結婚相手の「経済力」を重視

未婚ミドルに、結婚相手の条件として平均初婚年齢に近い30歳頃には何を重視していたか、また現在は何を重視しているかを尋ねました。

◆ 未婚ミドル男性の結婚相手の条件は、まずは「性格」、次に「相性」

男性の場合、1位が「性格」(5割前後)、2位が「相性」(4割前後)である点は、30歳当時も現在も変わりません。

他方、「容姿」と「健康」には年齢による大きな変化が見られました。「容姿」は30歳当時は3人に1人(34.8%)が挙げ、3位でしたが、40代あるいは50代となった現在は半減しています。逆に「健康」は30歳当時は2割(19.6%)にとどまっていたが、50代では3人に1人(33.3%)が挙げています。

また、「(結婚相手の)条件はない」と回答した男性は、30歳当時は2割強(21.6%)でしたが、50代は3割近く(28.7%)までアップしています。

◆ 未婚ミドル女性は2人に1人が、30歳当時も現在も、結婚相手の「経済力」を重視

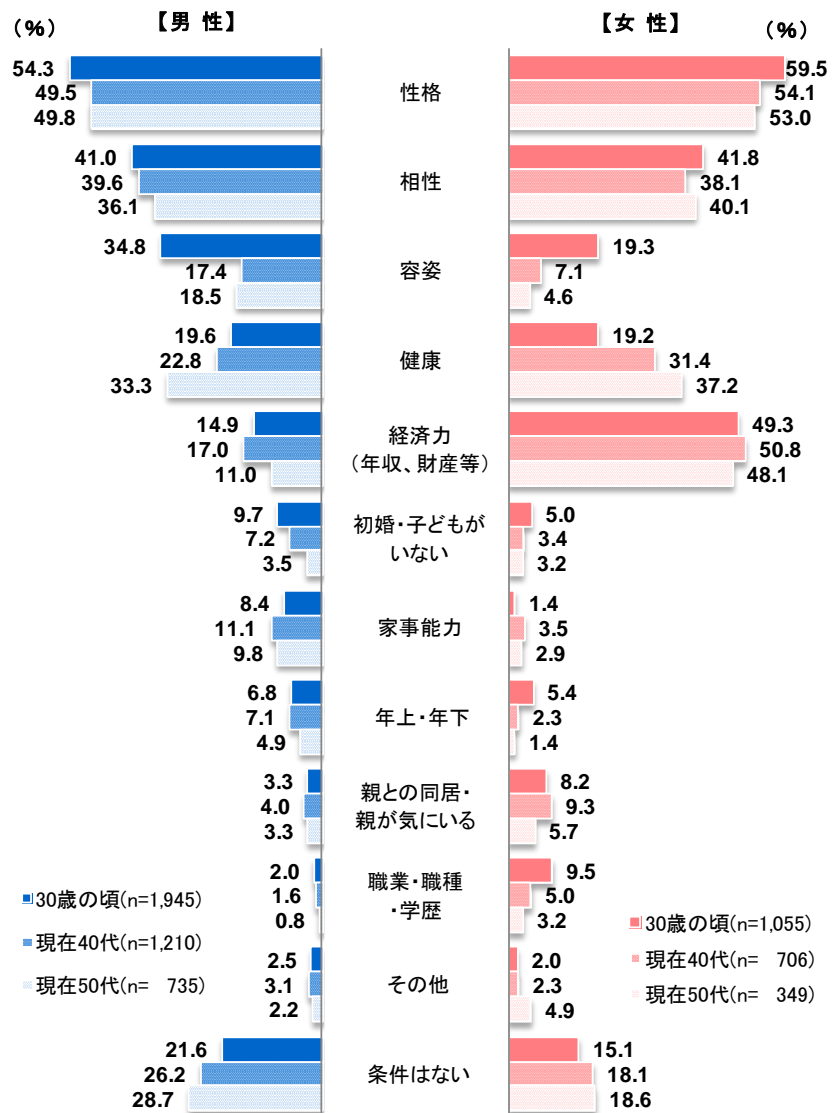
女性の場合、1位が「性格」(5割強)である点は男性と共通です。さらに、「相性」も4割前後が挙げていますが、それを上回る5割ほどが「経済力」を重視すると答えています。

「経済力」を求める女性の割合は、平均初婚年齢に近い30歳頃に49.3%でしたが、40代あるいは50代の現在においても、その割合がほとんど変わっていない点が特徴です。

女性が幅広い年齢にわたって、結婚相手である男性の経済力に期待する傾向が、今回の調査からも見て取れます。

また、「容姿」と「健康」に年齢による変化が見られる点は、男性と同様です。

図表3 結婚相手の条件（複数回答〈3つ以内〉）



4. 子どもを持つことに対する気持ち

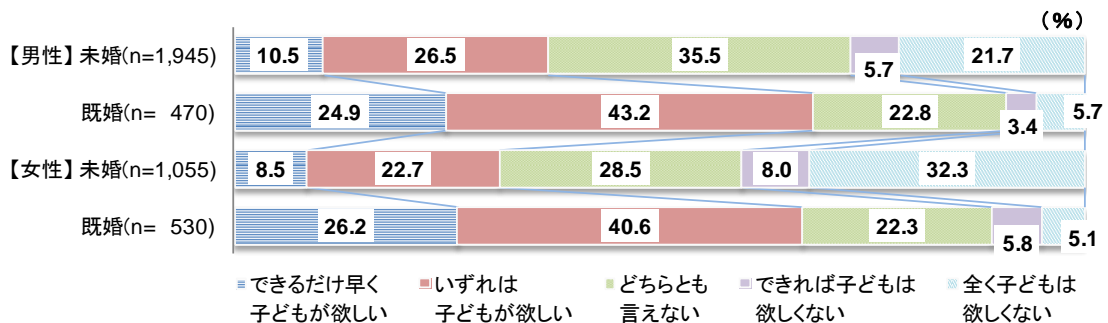
- ◎ 30歳当時子どもを持つことに前向きだった未婚ミドルは、男性4割弱、女性3割強
- ◎ 30歳当時子どもを持つことに前向きだった未婚ミドルの多くは、現在も結婚に前向き

◆ 30歳当時子どもを持つことに前向きだった未婚ミドルは、男性4割弱、女性3割強

子どもを持つことに対して若い頃どう思っていたかについて、未婚ミドルには平均初婚年齢に近い30歳頃、既婚ミドルには結婚直前頃の気持ちを訊きました。

“前向きな気持ち”(「できるだけ早く子どもが欲しい」と「いずれは子どもが欲しい」)を持っていた割合は、既婚者は男女とも7割弱(男性68.1%、女性66.8%)を占めていたのに対し、未婚者は男性が4割弱(37.0%)、女性は3割強(31.2%)という結果でした。

図表 4-1 子どもを持つことへの気持ち — 未婚者：30歳頃、既婚者：結婚直前

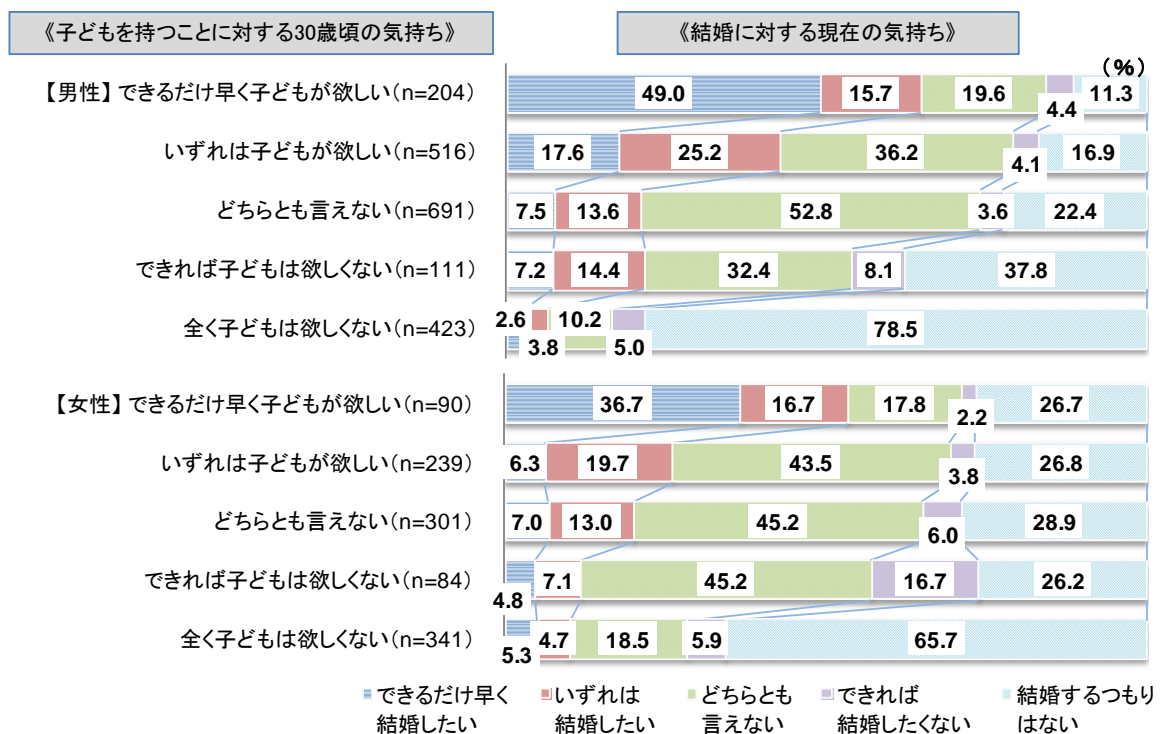


◆ 30歳当時子どもを持つことに前向きだった未婚ミドルの多くは、現在も結婚に前向き

未婚ミドルが若い頃に子どもを持つことに対して抱いていた気持ちと、現在の結婚に対する気持ちの関係を見てみました。

両者の関係は顕著で、30歳当時「できるだけ早く子どもが欲しい」と思っていた男性の5割(49.0%)、女性の4割弱(36.7%)が、現在「できるだけ早く結婚したい」と思っています。この気持ちを実現できるよう、婚活支援や環境面でのバックアップが重要ではないでしょうか。

図表 4-2 30歳頃の子どもの持つことへの気持ちと、現在の結婚に対する気持ち



5. 若い頃の職業と住まい方

- ◎ 未婚ミドルの若い頃の正規就労率は、既婚者を大きく下回る —— 未婚化との関係を示唆
- ◎ 若い頃の親との同居は、男性を未婚へ、女性を結婚へ

◆ 未婚ミドルの若い頃の正規就労率は、既婚者を大きく下回る —— 未婚化との関係を示唆

若年層の不安定就労が未婚化の原因のひとつであると言われています。そこで、40代・50代の未婚者と既婚者の過去の就労状況を比較しました。

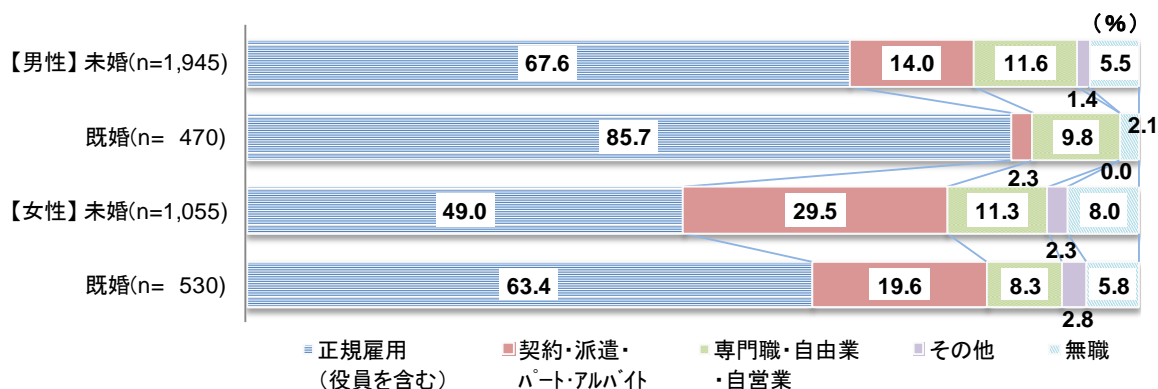
具体的には、未婚者には平均初婚年齢に近い30歳頃の職業を、一方、既婚者には結婚に対する影響を見る趣旨から、結婚する直前頃の就労状況を質問しました。ちなみに、この調査の既婚者の初婚年齢の平均は、男性は33.5歳、女性は31.6歳と、どちらも30歳を少し上回っています。

結果は図表5-1のとおり。正規雇用で働いていた人の割合は、既婚者が男性85.7%、女性63.4%であるのに対し、未婚者は男性が67.6%、女性は49.0%でした。両者の間に男性には18.1ポイントの隔たりがあり、女性にも14.4ポイントの差が認められました。

未婚男性の14.0%、未婚女性の29.5%が契約・派遣社員、パート・アルバイトといった非正規就労で、これは既婚者を男女とも10ポイント前後上回る数字です。また、未婚者の場合、男性の5.5%、女性の8.0%が無職でした。

不安定就労と未婚化の深い関係が示唆される結果となりました。

図表5-1 若い頃の職業 —— 未婚者：30歳頃、既婚者：結婚直前

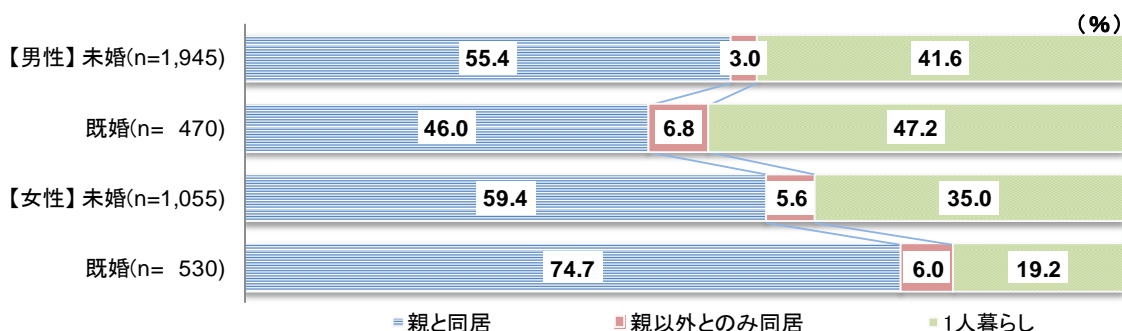


◆ 若い頃の親との同居は、男性を未婚へ、女性を結婚へ

未婚者には30歳頃、既婚者には結婚直前に誰と同居していたかを尋ねたところ、男女で対照的な傾向が見られました。

「親と同居」と回答した割合は、男性の場合、未婚者(55.4%)のほうが既婚者(46.0%)より高かったのに対し、女性は既婚者(74.7%)が未婚者(59.4%)を15.3ポイントも上回りました。

図表5-2 若い頃の同居者 —— 未婚者：30歳頃、既婚者：結婚直前



6. 未婚ミドルの生活満足度

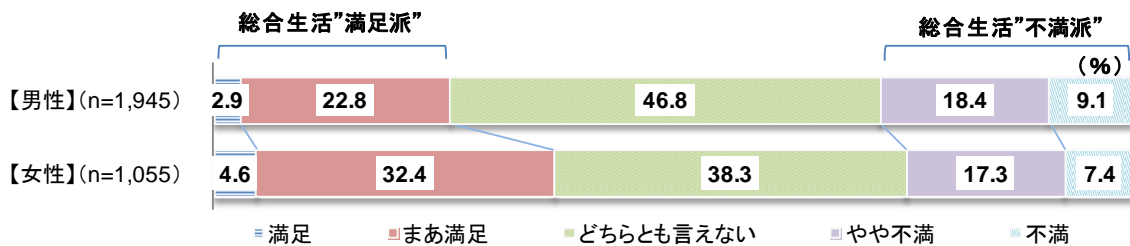
- ◎ 未婚ミドルの総合生活“満足派”の割合は、女性が男性を大きく上回る
- ◎ 総合生活満足度を高めるカギは経済と健康、ネックになるのは自分の時間と人間関係

未婚ミドルに「仕事の内容」「家族との関係」「友人との関係」「年収・財産」「健康状態」「自分自身の時間」の6項目と、これら全てを含めた生活全般（「総合生活」）に関する現在の満足度を尋ねました。

◆ 未婚ミドルの総合生活“満足派”の割合は、女性が男性を大きく上回る

「総合生活」については、男性は“満足派”（「満足」と「まあ満足」）が 25.8%、“不満派”（「やや不満」と「不満」）が 27.5%と“不満派”がやや多いのに対し、女性は“満足派”が 37.1%で、“不満派”の 24.6%を大きく上回っています。

図表 6-1 総合生活満足度の分布



◆ 総合生活満足度を高めるカギは経済と健康、ネックになるのは自分の時間と人間関係

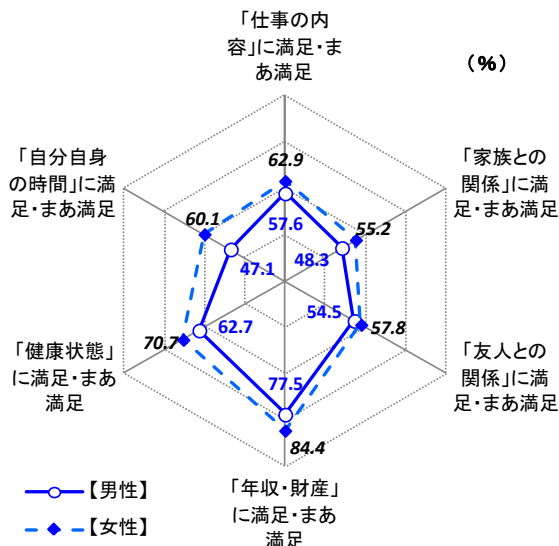
「仕事の内容」「家族との関係」「友人との関係」「年収・財産」「健康状態」「自分自身の時間」の各項目のなかで、どれが総合生活満足度により強く影響しているかを見てみました（図表 6-2）。

左のグラフは、各項目それぞれに「満足」「まあ満足」と回答した人のうちの総合生活“満足派”の割合、右のグラフは、各項目に「やや不満」「不満」と回答した人のうちの総合生活“不満派”の割合です。

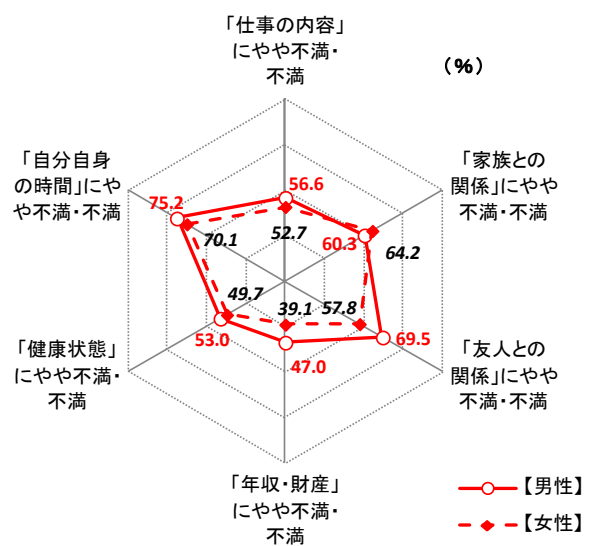
左のグラフを見ると、男女とも「年収・財産」に満足している人に総合生活“満足派”が極めて多いことがわかります。次いで「健康状態」も生活全般の満足度を高めることが伺えます。

一方、右のグラフによると、「自分自身の時間」への不満が生活全般の満足度に強い負の影響を与えていることがわかります。さらに「友人との関係」や「家族との関係」といった人間関係への不満も、総合生活満足度を低下させるようです。

図表 6-2 〔左〕各項目に「満足」「まあ満足」と回答した未婚ミドルのうち、総合生活“満足派”の割合



〔右〕各項目に「やや不満」「不満」と回答した未婚ミドルのうち、総合生活“不満派”の割合



7. 独身のデメリット

◎ 未婚ミドルを感じる独身の最大のデメリットは「病気になったときが不安」

◎ 既婚ミドルの想像以上に、未婚ミドルは自身の介護や老後の経済不安を独身のデメリットと認識

◆ 未婚ミドルを感じる独身の最大のデメリットは「病気になったときが不安」

未婚ミドルと既婚ミドルに、独身のデメリットは何だと思いかを尋ねました。

未婚ミドルの回答が最も多かったのは、男女とも「病気になったときが不安」(男性 38.9%、女性 37.4%)でした。また、女性は「老後の経済面が不安」も同率トップです。

それ以下には、未婚ミドルの男女間で違いが見られ、男性では「老後の生活が寂しい」(26.9%)、「特にデメリットはない」(24.1%)、「日常生活が寂しい」(22.6%)、「自分に介護が必要になったときが不安」(19.5%)と続くのに対し、女性の場合は「自分に介護が必要になったときが不安」(24.8%)、「配偶者の収入をあてにできない」(24.4%)、「老後の生活が寂しい」(22.0%)の順でした。病気や自分の介護の不安に加え、男性は寂しさ、女性は経済面にデメリットを感じる傾向があると言えそうです。

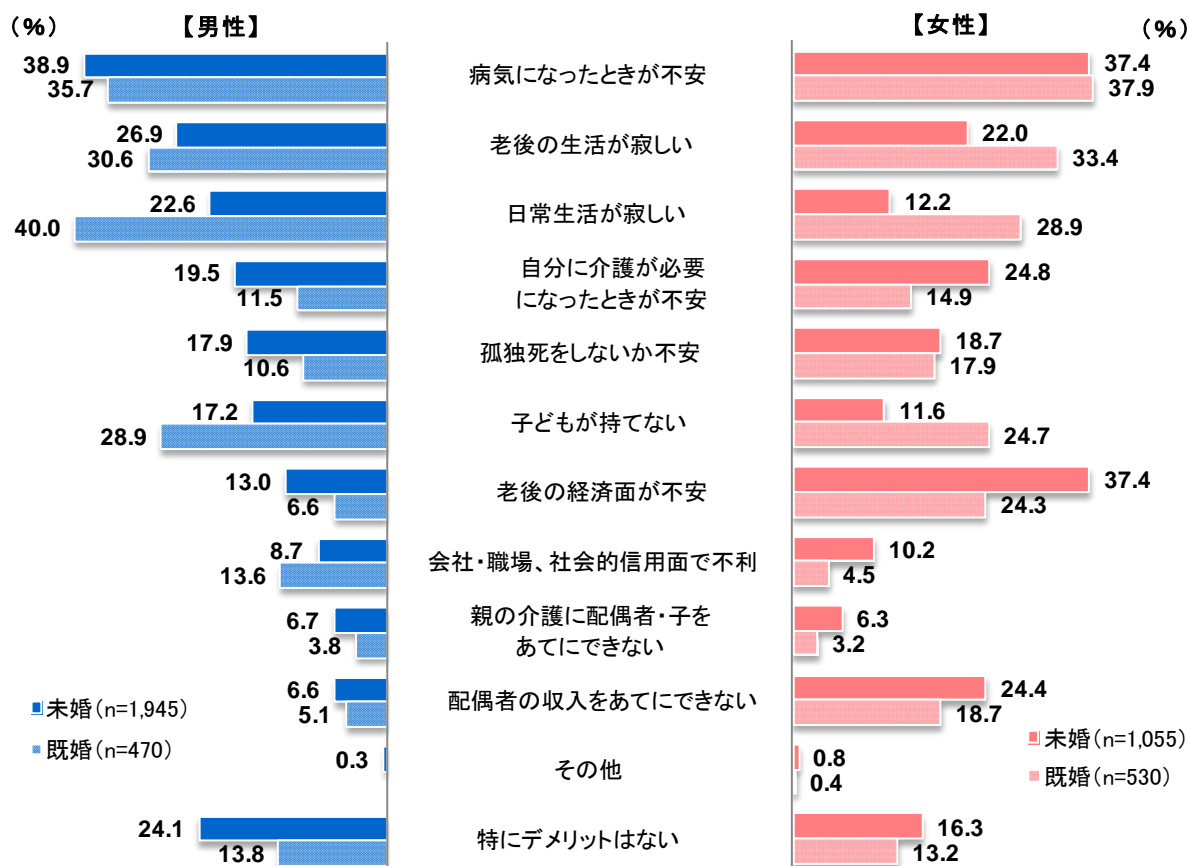
◆ 既婚ミドルの想像以上に、未婚ミドルは自身の介護や老後の経済不安を独身のデメリットと認識

未婚ミドルと既婚ミドルの間にも、認識の隔たりがいくつも見られました。

「日常生活が寂しい」はギャップが最も顕著で、男性の場合、既婚者の4割(40.0%)が挙げて全項目中トップだったのに対し、未婚者自身で挙げた人は2割強(22.6%)にとどまっています。女性も既婚者(28.9%)が未婚者(12.2%)の倍以上でした。

この他に、既婚者が未婚者を上回っている項目としては「老後の生活が寂しい」「子どもが持てない」、一方、未婚者のほうが高いものとしては「自分に介護が必要になったときが不安」「老後の経済面が不安」などがあります。既婚者の想像とはやや異なり、未婚者自身は寂しさといったことより、将来の生活不安を独身のデメリットと考えているようです。

図表7 独身のデメリット (複数回答 <3つ以内>)



8. 社会保障制度や子育て環境に対する考え

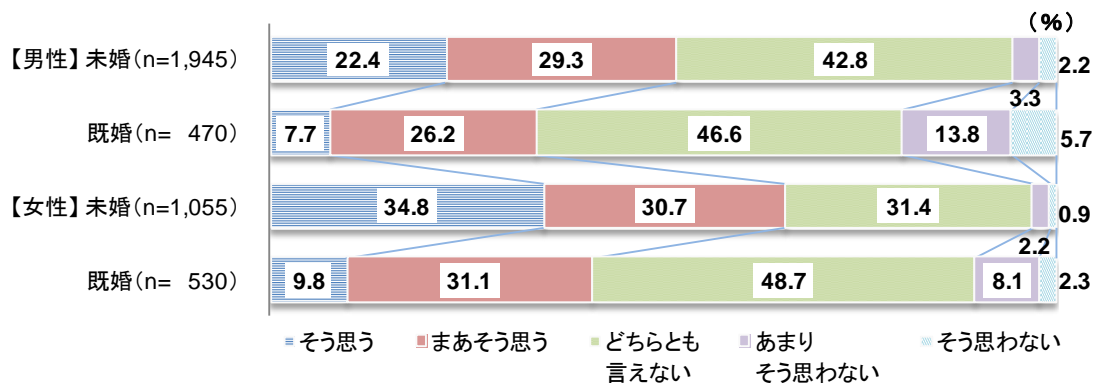
- ◎ 未婚ミドル男性の半数強、女性の2/3近くが「現在の税金や社会保障制度は未婚者に不利」
- ◎ 女性ミドルは未婚者も既婚者も約半数が「出産・育児と仕事の両立の難しさが未婚化の原因」

◆ 未婚ミドル男性の半数強、女性の2/3近くが「現在の税金や社会保障制度は未婚者に不利」

未婚ミドルと既婚ミドルに「現在の税金や社会保障制度は、未婚者に不利にできている」と思うかどうかを尋ねました。“肯定派”（「そう思う」と「まあそう思う」）の割合は、男性は未婚者が 51.7%、既婚者は 33.8%、女性は未婚者が 65.5%、既婚者は 40.9%という結果でした。

注目したいのは、未婚ミドルだけではなく、既婚ミドルにも税金や社会保障の制度が未婚者に不利だと考えている人が多い点です。既婚ミドルの男女とも、“肯定派”の割合が“否定派”（「あまりそう思わない」と「そう思わない」）を大きく上回っており、特に女性の場合、“肯定派”（40.9%）と“否定派”（10.4%）には30ポイント以上の差が見られました。

図表 8-1 「現在の税金や社会保障制度は、未婚者に不利にできている」に対する考え



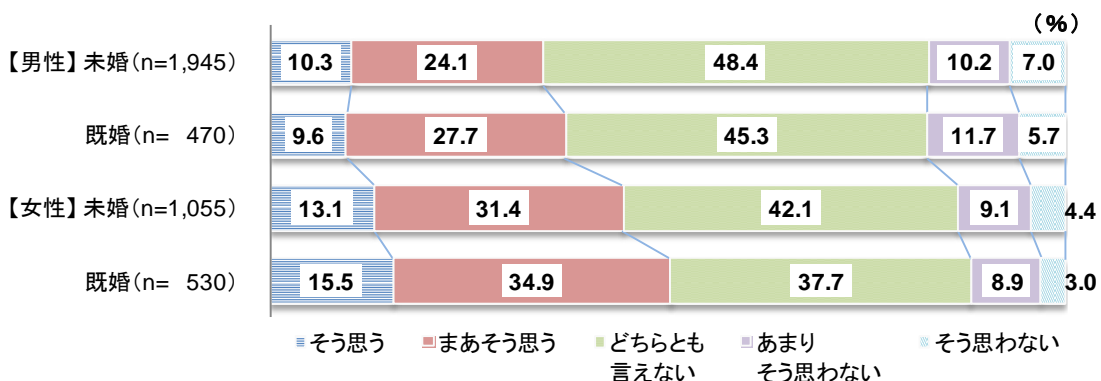
◆ 女性ミドルは未婚者も既婚者も約半数が「出産・育児と仕事の両立の難しさが未婚化の原因」

未婚ミドルと既婚ミドルに「出産や育児をする女性が働き続けられる環境が整備されていないことが、未婚率が高くなった大きな原因だ」と思うかどうかを尋ねました。

男性の3分の1以上（未婚者 34.3%、既婚者 37.2%）、女性は約半数（未婚者 44.5%、既婚者 50.4%）が“肯定派”（「そう思う」と「まあそう思う」）で、男女とも2割に届かなかった“否定派”（「あまりそう思わない」「そう思わない」）を大きく上回りました。

“肯定派”の割合は、男女とも既婚者が未婚者を上回っており、特に、出産・育児と仕事の両立の難しさを実体験している人が含まれる既婚女性が、子育て環境と未婚率を結びつけたこの見方を支持する割合が最も高かった点が特徴的です。

図表 8-2 「出産や育児をする女性が働き続けられる環境が整備されていないことが、未婚率が高くなった大きな原因だ」に対する考え



9. 未婚ミドルの親との経済的援助関係

- ◎ 親と同居中の未婚ミドルは、年収 200 万未満の割合が、一人暮らしに比べ男性 1.6 倍、女性 1.9 倍
- ◎ 親と同居中の未婚ミドルは、男性の 5 割、女性の 7 割近くが、親を日常から経済面で頼りに

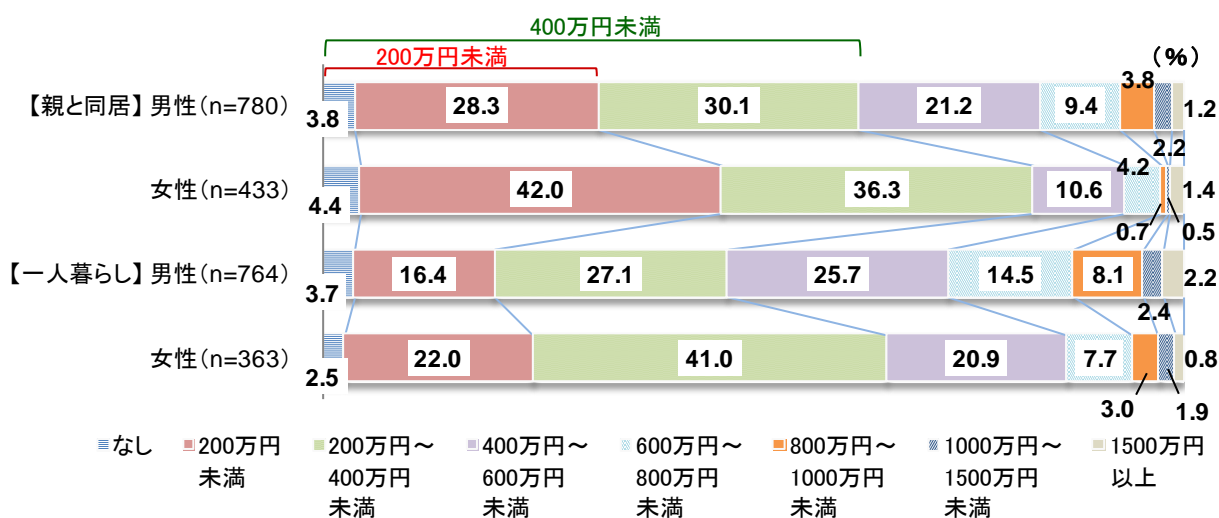
◆ 親と同居中の未婚ミドルは、年収 200 万未満の割合が、一人暮らしに比べ男性 1.6 倍、女性 1.9 倍

未婚ミドルのうち親と同居している人と一人暮らしの人に注目し、年収の分布を比較しました。

親と同居している未婚ミドルのうち年収が 400 万円未満の人の割合は、男性は 62.3%、女性は 8割を超えて 82.7%でした。一人暮らしで年収 400 万円未満の割合が男性は 47.1%、女性は 65.6%であることと比べると、その差は顕著です。

さらに、年収 200 万円未満に絞ると、親と同居している人の場合、男性は3割強 (32.2%)、女性は5割近く (46.4%)を占めており、一人暮らしの人に比べ、男性は 1.6 倍、女性は 1.9 倍に上っています。

図表 9-1 未婚ミドルの年収分布（無職を除く）—— 親と同居している人と一人暮らしの人の比較



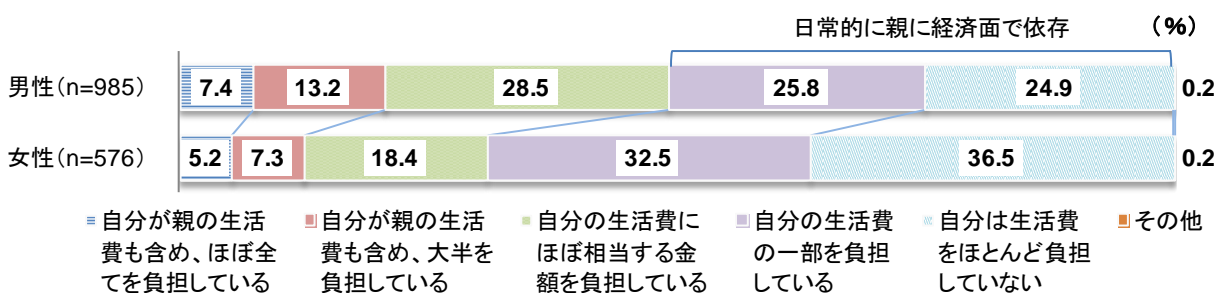
◆ 親と同居中の未婚ミドルは、男性の 5 割、女性の 7 割近くが、親を日常から経済面で頼りに

こうした年収の状況から、実家に住み、親に依存して経済的に自立できていない人が一定程度いることが想定されます。

そこで、無職の人も含めて親との経済的援助関係を尋ねたところ、親と同居している未婚者のうち、男性では4人に1人 (24.9%)、女性は3人に1人 (36.5%)が生活費を自分ではほとんど出していないことがわかりました。さらにこれに「自分の生活費の一部を負担している」人までを加えると、男性の5割 (50.7%)、女性の7割近く (68.9%)が、日常的に経済面で親に頼っていることになります。

一方、一人暮らしの場合は、親から金銭的な援助を受けている人は1割程度 (男性 9.1%、女性 14.3%)でした (図表は割愛)。

図表 9-2 親と同居している未婚者と親の経済的援助関係 (直近 1 年間)



10. 未婚ミドルの親の介護

- ◎ 介護が必要な親がいる未婚ミドル男性の4割強、女性の6割近くが、介護の主役は「自分」
- ◎ 未婚ミドルの半数が、親が一人で介護が必要になれば、自分が介護の主役になるつもり

◆ 介護が必要な親がいる未婚ミドル男性の4割強、女性の6割近くが、介護の主役は「自分」

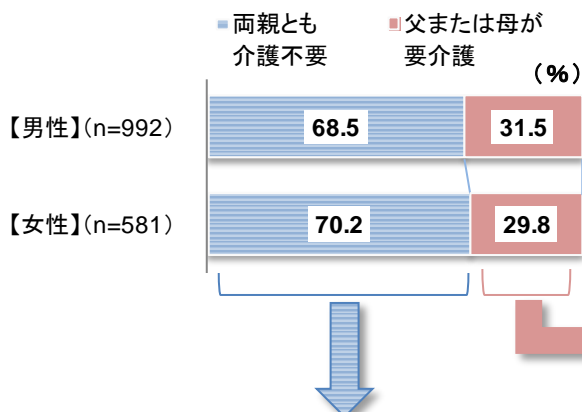
未婚ミドルの約3割(男性 31.5%、女性 29.8%)に、現在介護が必要な親がいます(図表 10-1)。その人たちに、主に誰が介護しているのかを尋ねたところ、男性の4割強(43.6%)、女性の6割近く(58.4%)が「自分」だと答えており、他の親族や介護スタッフを上回っています(図表 10-2)。特に、女性の場合、自分が介護の主役になっている割合は、介護スタッフの2倍以上、兄弟姉妹の4倍以上に上っており、未婚女性が親の介護を引き受けているケースが多いことが分かりました。

◆ 未婚ミドルの半数が、親が一人で介護が必要になれば、自分が介護の主役になるつもり

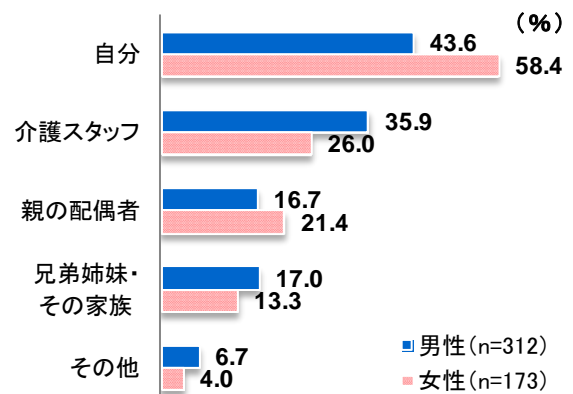
一方、現在両親とも介護が必要ではないと回答した人に、将来親が一人だけになり、仮に介護が必要になった場合、誰が主に介護することになると思うかを尋ねたところ、半数前後が「自分」だと回答しました(図表 10-3)。「自分」が主に介護すると予想する割合は、実際に介護している人(図表 10-2)と同様に、女性が男性を上回っています。

なお、親が一人になって介護が必要になった場合、それが父親のケースと母親のケースを比較すると、主介護者の想定に多少差が見られました。母親が一人になった場合のほうが、自分自身が介護すると考える人が多く、特に女性にその傾向が強く見られました。一方、父親の場合は、母親の場合に比べ、介護スタッフに頼ることを想定している人が多いようです(図表 10-3)。

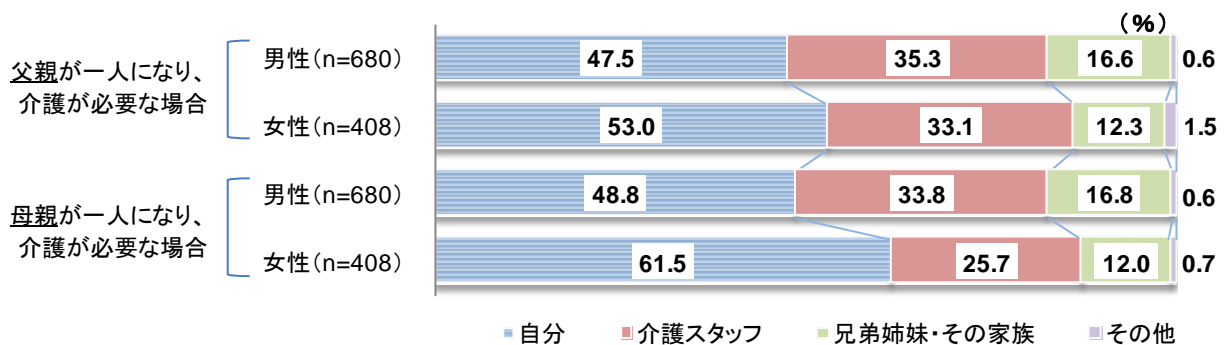
図表10-1 現在、親は介護が必要か



図表10-2 現在、主に介護している人(複数回答)



図表10-3 もし将来、親が一人になり、介護が必要な場合、主に介護をすることになると思う人



11. 未婚ミドルの老後の不安

- ◎ 未婚ミドルの老後の最大の不安は、男女とも「生活費の不足」
- ◎ 未婚ミドル男性の3割、女性の4割が、自身の寝たきりや認知症を心配

◆ 未婚ミドルの老後の最大の不安は、男女とも「生活費の不足」

未婚ミドルが老後を考えたときに不安に感じるもののトップは、男女ともに「生活費の不足」でした。男性の過半数(56.9%)、女性は男性を上回る65.3%がこれを挙げています。

一方、「経済的に豊かな生活ができないこと」を不安とする回答は、男女とも4人に1人(男性26.6%、女性25.2%)にとどまっています。

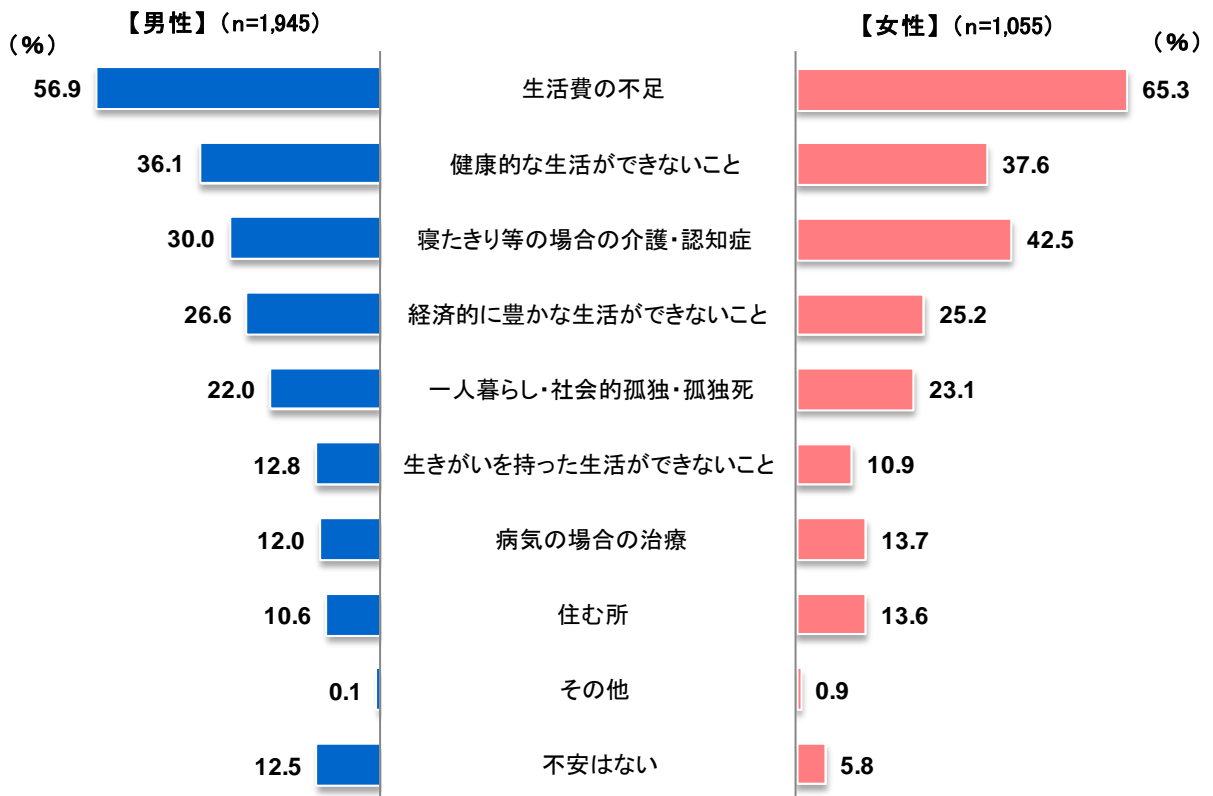
経済的に余裕のある生活からは遠い、かなり厳しい老後を予想している人が多いことが窺われます。

◆ 未婚ミドル男性の3割、女性の4割が、自身の寝たきりや認知症を心配

「生活費の不足」に次いで多くの方が挙げたのは“健康”に関する不安ですが、男女間に若干の違いが見られました。

男女とも4割弱(男性36.1%、女性37.6%)が「健康的な生活ができないこと」を挙げていますが、女性はそれを上回る42.5%が「寝たきり等の場合の介護・認知症」と答えており、男性の30.0%に比べてその高さが目立ちます。こうした男女差は、女性が男性より長寿であることや、女性のほうが認知症になる割合が高いと言われていることが影響しているのかもしれませんが。

図表 11 老後の生活を考えたときに不安に思うこと (複数回答 <3つ以内>)



12. 未婚ミドルの老後資金準備

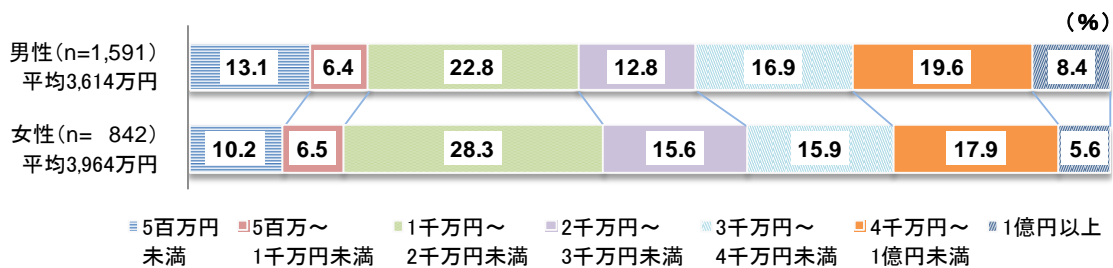
- ◎ 未婚ミドルが引退までに準備が必要だと思う平均金額は、男性 3,614 万円、女性 3,964 万円
- ◎ 未婚ミドルは男女とも 3 割が、老後資金の不足額が 1 千万円超と予測

◆ 未婚ミドルが引退までに準備が必要だと思う平均金額は、男性 3,614 万円、女性 3,964 万円

未婚者に、引退までに準備が必要だと思う老後資金額(*)を訊いたところ、男性の2割強(22.8%)、女性の3割弱(28.3%)が「1,000 万円以上 2,000 万円未満」と答え、平均は男性が 3,614 万円、女性は 3,964 万円でした。

(*) 公的年金や退職金、企業年金、土地や建物の評価額は除く。

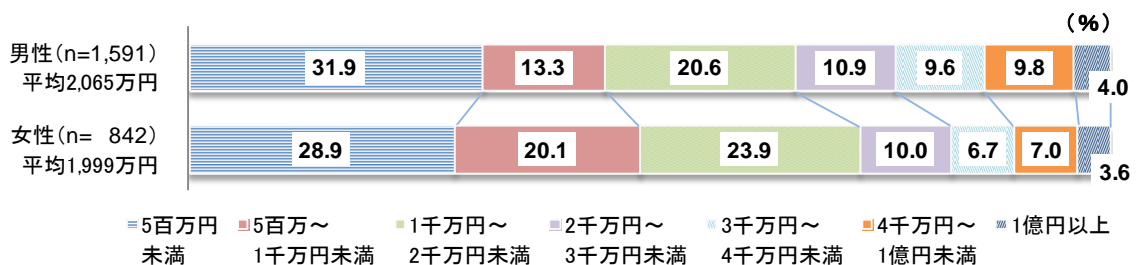
図表 12-1 現役引退までに準備が必要だと思う金額



◆ 未婚ミドルが引退までに準備できると思う平均金額は、男性 2,065 万円、女性 1,999 万円

一方、引退までにいくら準備できると思うかという質問に対しては、男女とも約3割(男性 31.9%、女性 28.9%)が「500 万円未満」と答えており、平均は男性が 2,065 万円、女性は 1,999 万円でした。

図表 12-2 現役引退までに準備できると思う金額

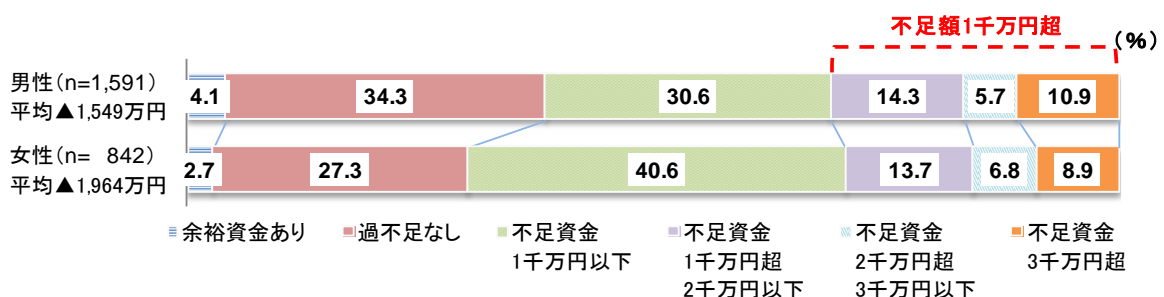


◆ 未婚ミドルは男女とも 3 割が、老後資金の不足額が 1 千万円超と予測

“必要だと思う”金額と“準備できると思う”金額を比較すると、平均で男性は 1,549 万円、女性は 1,964 万円のマイナス、つまり老後資金不足でした。

老後資金不足と予想される人は、男性は6割強(61.6%)、女性では7割(70.0%)を占め、男女とも3割(男性 31.0%、女性 29.3%)が、不足額が1千万円を超える厳しい結果となりました。

図表 12-3 “必要だと思う”金額と“準備できると思う”金額の差



13. 老後に介護が必要になった場合の住まいと世話になる人

- ◎ 未婚ミドルの5割前後が、老後に介護が必要になっても、自宅暮らしを想定
- ◎ 未婚ミドルの3人に1人以上が、介護が必要になったら在宅介護スタッフに頼ると予想

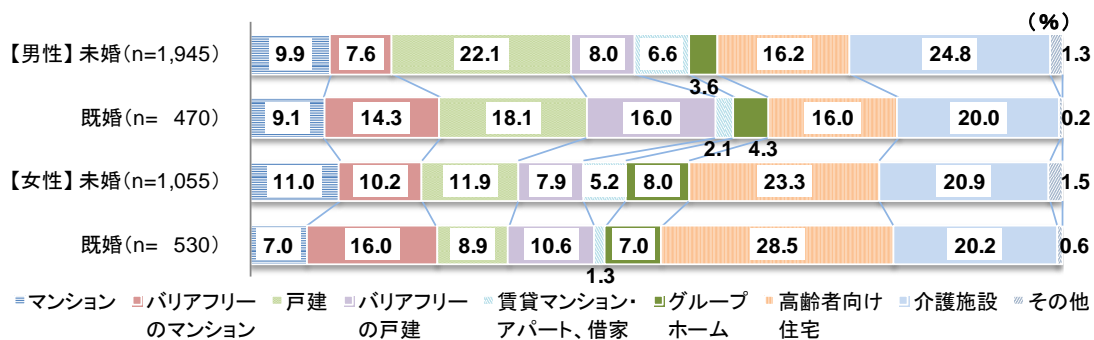
◆ 未婚ミドルの5割前後が、老後に介護が必要になっても、自宅暮らしを想定

老後もし介護が必要になった場合に想定する住まいを尋ねたところ、「介護施設」は、男性は未婚者(24.8%)が既婚者(20.0%)を4.8ポイント上回りましたが、女性はほぼ同じ(未婚20.9%、既婚20.2%)でした。

図表13-1で「マンション」から「賃貸マンション、アパート、借家」までは介護サービスのない自宅です。未婚男性の54.1%、女性では既婚者を上回る46.3%が自宅を想定しています。内閣府の調査(*)で、8割以上の人が、高齢期の住まいの希望として自宅を選んだことが話題になりましたが、未婚者が介護が必要になった際にも、半数が自宅での生活を想定していることから、地域におけるケアが大変重要になると言えそうです。

(*) 内閣府「平成25年度 高齢期に向けた『備え』に関する意識調査」

図表13-1 老後、自分が介護が必要になった場合に想定する住まい



◆ 未婚ミドルの3人に1人以上が、介護が必要になったら在宅介護スタッフに頼ると予想

未婚ミドルに、老後介護が必要になった場合に、世話になりたい人と世話になると予想する人を尋ねたところ、男女とも、希望・予想いずれも1位は「(入居した)介護施設のスタッフ」でした。

自宅での生活を想定する人が多いこともあり、2位には僅差で「在宅介護スタッフ」が入りました。未婚ミドルの3人に1人以上(男性34.8%、女性36.3%)が、在宅介護スタッフに世話になると予想しています。

介護スタッフは施設・在宅ともに、予想する人が希望する人を上回りました。希望とは異なるけれど、現実的には介護スタッフに頼ることになるだろう、と考えている人が一定程度いるようです。

なお、「近隣の住民」は男女とも2%以下にとどまりました。地域でのケアの重要性が高まるものの、地域住民どうしの助け合いを想定している未婚ミドルは極めて少ないことが分かりました。

図表13-2 自分が介護が必要になった場合に、世話になりたい人、世話になると予想する人(複数回答)

